

平成30年2月秋田市議会定例会代表質問者順序

秋 水 会 鎌 田 修 悦

そ う せ い 武 内 伸 文

フロンティア秋田 倉 田 芳 浩

市 民 ク ラ ブ 見 上 万 里 子

公 明 党 武 田 正 子

社会・市民連合 工 藤 新 一

1 市長の市政運営について

- (1) 市長が両副市長及び教育長に期待するものは何か
- (2) 議会との関係や対応について、どのように考えているのか
- (3) 泉・外旭川新駅（仮称）については、地元町内会等からトイレ設置等の要望が出されているが、事業費を含め対応についてどのように考えているのか、また、新駅の設置による泉・外旭川両地区の将来展望をどう描いているのか
- (4) 旧県立美術館の利活用について
 - ア 同館の利活用案の検討に当たっては、にぎわい交流館など周辺に点在する類似施設との役割の違いを明確にしないと市民理解は得られないと思うがどうか
 - イ 同館を「簡単に失ってはならない先人の遺産」とするならば、市として半永久的に残すべき財産として保存していく覚悟はあるのか、また、覚悟があるとなれば、施設改修費、将来的な維持管理コスト及び想定利用者数の見込みをどのように考えているのか
 - ウ 同館の利活用案については何度も説明を受けてきたが、他都市の類似施設と比較しても理解できず不安があることから、佐竹史料館としての活用や新文化施設の分館と位置づけた方がよいと思うがどうか
- (5) 新スタジアムの整備について
 - ア 新スタジアムの整備は行政主導になることは間違いのないと思うが、県、市、縣市連携のいずれが主体になるのか
 - イ ブラウブリッツ秋田がJ2に昇格するためには、みずからの相当な努力が必要であるが、市としても昇格を確信し、新スタジアムの整備を検討するとしたのであれば、同チームへの今後の支援をどう考えているのか
 - ウ 積雪期間が長い本市にあっては、全天候型で多機能型のスタジアム整備が望ましいと思うが、どう考えているのか

エ 観客数の現状にかんがみ、県議会では多額の経費を要する新スタジアム整備に反対する意見が多いようであるが、どのように考えているのか

(6) 元気な秋田市をつくるため、第13次秋田市総合計画を筆頭に、秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略やまちづくりに関する個別計画を策定しているが、それぞれの策定の目的と役割、相互の関連性はどうか

(7) 不審船や身元不明の遺体の処理にどのように対応したのか、また、経費や負担についてはどうなっているのか

(8) 地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」について
ア 政府が導入を決定したことについての市長の見解はどうか

イ 本市が配備候補地に選定された場合の地元首長への政府の説明は、どうあるべきと考えているのか

2 本市のまちづくりについて

(1) 第2期秋田市中心市街地活性化基本計画等について

ア 同計画には小売店舗数や販売額など商業に関する目標値が示されていないが、同計画に基づく各種施策の実現により交流人口の拡大が想定されることから、今後の商業を取り巻く状況の変化をどのように考えているのか

イ 中心市街地の活性化に当たっては、市民の協力や民間企業の資金力をかりるなど、民間活力の導入を積極的に推進すべきと思うがどうか

ウ 芸術文化ゾーン形成の意義と経済波及効果について、どのように考えているのか

エ 県・市連携文化施設整備事業に係る総事業費は、県民会館及び文化会館を個別に建設する場合と比較して安価であるべきと考えるが、どのように検討しているのか

(2) 秋田市立地適正化計画について

ア 同計画の住民説明会における市民の反応は、計画内容とまちの現

状に乖離があるため理解不足や疑問が多いようであるが、どのように認識し、今後の進め方をどのように考えているのか

イ 同計画の目標年次をおおむね2040年とし、基本指標や基準値等を設定した上で5年ごとに計画の進捗状況や妥当性を検証するとしているが、予定どおり達成できると考えているのか

ウ 本市における同計画の公表時期はいつか、また、同計画の実施に当たり、国から具体的にどのような支援があればよいと考えているのか

(3) 中心市街地における空き家等の対策について

ア 中心市街地における空き家、空き地及び空き店舗の具体的な数値を把握しているのか、また、その具体的な対策について、どのように考えているのか

イ 山形県鶴岡市が実施しているランド・バンク事業を導入する考えはないか

ウ 秋田駅前の空きビルとなっているビジネスホテルの状況に変化はないのか、また、万が一事故があった場合、行政に責任が及ぶ可能性はないのか

3 教育と福祉について

(1) 幼児教育や高等教育の無償化の対象とされる住民税非課税世帯とは、一般的にどのような世帯か、また、本市における世帯数はどうか

(2) 幼児教育・保育の無償化について

ア 幼児教育・保育の無償化よりも、施設整備や保育士の確保などによる待機児童の解消が先と思うがどうか

イ 認可保育所等の保育料の無償化は、高い保育料を払っている高所得者ほど恩恵を受けることになるが、認識はどうか

(3) 高等教育の無償化について

ア 勉強が好きになるかどうかは幼児期に決まると言われていることから、高等教育の無償化ではなく、幼児教育と義務教育に予算を傾注すべきとの意見があるが、認識はどうか

イ 大学に進学せず社会に出て働く若者は、高等教育の無償化などの国の教育助成を受けられないことから不公平・不平等が生じると思うが、認識はどうか

(4) 教育について

ア 高学歴で低学力の社会化について、どのようにとらえているのか

イ 小中学校におけるスマートフォンの使用に対する指導はどうなっているのか

ウ 道徳の教科化に対する準備状況はどうなっているのか

(5) 県では健康寿命日本一を目指しているが、本市における具体的な取り組みをどのように考えているのか

4 環境問題について

(1) 秋田市一般廃棄物処理施設整備基金の積立額は、焼却施設更新費用の何割と想定しているのか、また、更新時期としている平成44年までの家庭ごみ有料化のあり方と基金の積み立てに対する考え方はどうか

(2) 再生可能エネルギーについて

ア 風力発電の推進に対する本市の方針や対応はどうか

イ 太陽光発電パネルや風力発電設備の廃棄物としての処理方法や対策を検討しているのか

(3) 秋田港火力発電所（仮称）建設計画に関しては、現在、環境影響評価準備書を縦覧に付し、平成31年8月の着工を目指しているが、環境省と経済産業省との間で火力発電に対する認識に違いがあり事業の進捗が懸念されるが、市としてどのように考えているのか

(4) 中小企業の省エネルギー対策への支援について

ア 民間企業の省エネルギーの取り組みについて、どのようにとらえているのか

イ 中小企業等省エネ促進事業における具体的な施策の展開をどのように考えているのか

5 財政等について

- (1) 市債残高の縮減について、今後の対応方針をどのように考えているのか
- (2) 少子高齢化や人口減少が進行する状況にあつて、各種基金の将来的な見通しはどうか
- (3) 現在市が保有している有価証券の種類と内訳、今後の運用方針や出納の責任はどうなっているのか
- (4) 特別滞納整理課の設置以降、未収金が大幅に減少していることから、同課の職員をふやして、さらなる減少に努めるべきと思うがどうか
- (5) ふるさと納税に関する総務省からの通知に基づき、謝礼品の取り扱いを一部変更したが、寄附の状況に変化は生じているのか

6 人事について

- (1) 非正規公務員の任用実態に関する調査の進捗状況はどうか、また、今後の対応は検討されているのか
- (2) 老朽化したインフラの今後の維持管理や更新に対応するため、本市の土木技師職員は確保されているのか

7 本市の諸課題について

- (1) 選挙について
 - ア 主権者教育を実施する機会が少ない19歳の投票率向上に向けた方策を、どのように考えているのか
 - イ 住民票を移していない学生のための不在者投票制度の周知について、どのように考えているのか
- (2) 本市への観光客の増加がもたらす経済波及効果について、どのように推計しているのか
- (3) 元気な秋田市をつくるため、本市に所在する大学の活用や教員・学生の協力を求める考えはないか

1 市民の幸福について

- (1) 市長は、市民の幸せ、不幸せについて、どのように考えているのか
- (2) 市民の願いや悩みを受けとめた施策を実施するために、市民とともに市民の幸せの指標を調査・検討し、共有してはどうか
- (3) 市民の幸せの指標について、継続的に市民と対話していくことが重要と考えるがどうか

2 新スタジアムの整備・検討について

- (1) (仮称)新スタジアム整備構想策定協議会における本市の位置づけはどうか、また、新スタジアムを整備する場合の主体はどこになるのか
- (2) 本市予算でスタジアムを整備することとなった場合、その明確な理由と見込まれる効果をどのように考えているのか
- (3) 新スタジアムを整備する場合、収益性を高めた稼げるスタジアムにするべきと思うが、市はどのようにかかわっていくのか

3 千秋公園への民間活力の導入等について

- (1) まちづくりや観光など多目的な機能が求められる千秋公園の管理企画運営において、P a r k - P F I の導入を含めた民間活力導入の可能性をどう考えるのか
- (2) 佐竹史料館の改築に伴い、同施設でのカフェ営業、ランニングステーションなど、日常的に利用できる機能を付加してはどうか、また、管理運営に指定管理者制度を導入してはどうか

4 まちのランドデザインと実現へのアプローチについて

- (1) 本市の目指す多核集約型コンパクトシティについて
 - ア 同コンパクトシティが実現した場合、どのようなまちになると考えているのか、また、他都市と異なる秋田市らしさはどのようなと

ころか

イ 実現した場合の効果が市民に十分に理解されていないと思われるが、市民にとっての効果は何か

ウ 完成目標年次を2040年としているが、もう少し早める考えはないか、また、早めた場合のメリットと遅くなった場合のデメリットをどう考えるのか

エ 5年あるいは10年単位でのマイルストーンがあってもよいと考えるがどうか

(2) 中心市街地や地域中心への集約方法について

ア 中心市街地や地域中心の活性化に際し、低未利用地が活性化を阻害しているという認識はあるのか

イ 秋田駅から千秋公園までのアプローチ上にある空きビルとなっているビジネスホテルについて、中心市街地活性化アクションプランでは、検討・協議していくとされていたが、現在の対応状況はどうか

ウ 都市のスポンジ化への対応については、現在国で協議が進められており、都市再生特別措置法等が改正された際には、自治体は低未利用土地利用等指針を作成し、低未利用地の管理について地権者に勧告が可能となることなどから、低未利用地の有効活用を早急に促進していくべきと考えるがどうか

5 公共交通について

(1) バス路線の廃止や便数減少が続く中、いつまでに公共交通体系を幹線、支線、地域内と分類する予定なのか

(2) バス路線網は、これまでと同様に秋田駅を中心としたものにするのか、それとも秋田市立地適正化計画で示された地域中心を意識した新しい形で検討していくのか

(3) 公共交通体系を検討する上で、乗り合いタクシーの位置づけをどのように考えているのか

(4) 乗り合いタクシーなどによる地域内交通を中心市街地や地域中心周

辺で実験的に開始してはどうか

- (5) 中心市街地循環バス「ぐるる」の運行状況をどう分析しているのか、また、それを受けて運行経路等の見直しは実施するのか
- (6) 都市計画道路川尻広面線、川尻総社線、秋田環状線などを大きく循環するバスを運行する考えはないか
- (7) 土崎地区における循環バスの必要性をどのように考えているのか

6 健康寿命の延伸について

- (1) 本市において、健康寿命の目標を明確に掲げていない理由は何か
- (2) 外出機会の創出策について

ア 市民の外出機会の創出策として、ボランティア、社会参加、運動などのコンシェルジュ機能（情報サポート）をワンストップで提供できないか

イ 介護支援ボランティアの活動者をさらにふやしていく工夫はあるのか

ウ ボランティア参加のきっかけとして、秋田県ボランティア団体連絡協議会が提示している色分けボランティアを推進できないか

エ 「暮らしの保健室」のように、だれもが気軽に病気や家族のことなどを相談できる環境をつくることはできないか

オ 外出機会の創出に関して、学術機関や企業との連携状況はどうか

カ 泉地区の「昼食サロン」のような仕掛けを全市に広げることではないか

- (3) 歩きたくなる歩行空間について

ア 健康づくり運動としてウォーキングコースが設定されているが、さらに市民に周知し、活用を進めていくべきではないか

イ 伸小路は中心市街地の軸と考えるが、魅力的な歩行者空間を構築するため、軒先オーニングの設置支援やライジングボラードの導入などを検討してはどうか

ウ 現在改定を進めている千秋公園再整備基本計画に「ポケットパーク（親水広場）からつながる遊歩道（デッキ）の整備」を掲げてい

るが、早期に整備する考えはないか

エ 中心市街地活性化アクションプランで表記されていた川反通りの
歩道融雪と電線地中化の見通しはどうか

7 認知症の受容と在宅介護について

(1) 認知症高齢者の介護施設と在宅での受け入れに当たって、将来的に
どのような課題があるのか

(2) デイサービスなどの認知症高齢者受け入れ環境の整備は十分なのか

(3) 認知症サポーターは1万9,000人を突破したが、今後どのような展
開を考えているのか

(4) ICTを活用した徘徊者捜索システムの導入を進めてはどうか

8 IoT等の推進について

(1) IoTやAIの活用可能性について、市の業務の棚卸しを実施し、
業務の効率化やサービスレベルの向上につなげるべきではないか

(2) 市として経済産業省等が募集する地方版IoT推進ラボの認定を受
け、IoTビジネスを支援していく考えはないか

9 環境都市の推進について

(1) ICLEI（持続可能性を目指す自治体協議会）へ加盟し、他自治
体との情報共有を進めながら、自治体として持続可能な社会づくりを
リードしていくことはできないか

(2) エネルギーの地産地消について

ア 本市において、ドイツのシュタットベルケのようなエネルギーの
地産地消を推進する考えはないか

イ エネルギー事業の収益を市民生活に還元する仕組みをつくること
はできないか

(3) 下水熱の活用について

ア 下水熱の利用を民間事業者へ開放してはどうか

イ 下水熱を融雪に活用する取り組みを実施してはどうか

ウ 市の事業として下水熱を活用した場合、どの程度の費用削減になるのか

10 インバウンドを含む交流人口の拡大について

(1) 物産のPR体制について

ア 機構改正により、物産関係が観光部門から産業振興部の所管となったが、PRの連携、協力体制はどのようになっているのか

(2) 指標について

ア インバウンド事業の評価はどのような指標でとらえているのか、また、評価においては、訪問人数だけではなく、経済波及効果などでも評価するべきと思うがどうか

(3) インバウンド対策としての観光資源の魅力磨きについて

ア 秋田城跡歴史資料館、旧金子家住宅、旧黒澤家住宅について、今後どのように外国人観光客を受け入れていくのか、また、観光客向けに、お土産品を販売してはどうか

イ 旧金子家住宅において常設カフェを営業してはどうか、また、民俗芸能伝承館を含む管理運営については、指定管理者制度を導入してはどうか

(4) 情報収集と情報発信について

ア 戦略的に事業を実施する上で、本市への訪問者の訪問目的及び出身国など、十分な情報収集がされていると考えているか

イ 効果的な観光プロモーションの実施及び観光客の受け入れ体制を構築する上で、適切な分析はなされているのか

ウ 今後の情報発信等の方針をどのように考えているのか

(5) 国際教養大学の活用について

ア インバウンド対策のための情報発信や国際相互理解等を目的として、同大学との包括的な協定を締結し緊密な連携をすべきではないか

イ 留学生によるモニターツアーなどを実施し、海外へのSNS発信などを試行してはどうか

ウ 国際相互理解のため、留学生と市民との交流の機会を創出してはどうか

11 ユニバーサルツーリズムについて

(1) 心のこもったおもてなしができるよう、観光案内所、公共施設、公共交通機関、飲食店などを対象に、手話を初め、筆談、指差し、確認ボードなどのコミュニケーション教室のような取り組みを実施することはできないか

- 1 核兵器禁止条約に対する認識等について
 - (1) 政府に対して核兵器禁止条約への批准、署名を求める要望等は本市にどのくらい届いているのか
 - (2) 平和首長会議における「2020ビジョン」の目標をどう認識しているのか
 - (3) 市長として「ヒバクシャ国際署名」に署名すべきと考えるがどうか

- 2 地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」の配備について
 - (1) 配備は国の専権事項との考えに変わりはないか
 - (2) 配備される地域には、どのような影響があると考えているのか
 - (3) 本市の歴史的事実から見て、市長として本市への配備反対の意思表示をすべきと考えるがどうか

- 3 県・市連携文化施設整備事業に係る秋田和洋女子高等学校への建物移転補償について
 - (1) 建物等移転補償事前調査業務委託について
 - ア 中間報告書では、仕様書に定めた事項を追加するよう依頼したとのことであるが、これはどのようなことか
 - イ 同業務委託の成果品をもとに、同校と話し合いの場は持たれたのか、また、持たれたとすればいつか
 - ウ 同校側の財産の増減に対する考え方について、関係者間で話し合いの場は持たれたのか
 - エ 成果品納品後、本市と県教育委員会、同校等との協議等が行われたのか、また、行われたとすれば、いつ、どこで、だれの出席のもと行われたのか
 - (2) 建物等調査積算業務委託について
 - ア 中間概算報告書について

- (ア) 中間概算報告書とは何か、また、なぜその提出を求めたのか
- (イ) 同報告書が納品されたのはいつか
- (ウ) 昨年10月10日の協議において、概算報告の精度向上を補償コンサルタント業者に指示しているがなぜか
- (エ) 同報告書に上限額が記載されていたのか
- (オ) 同報告書を交渉等に使用すべきではないと言われたのか、また、言われたとすればだれからだれに言われたのか
- (カ) 今後の同校の生徒数を566人と仮定したが、そのことをどのように検討したのか
- (キ) 新たな校舎の面積は、高等学校設置基準に照らせば3,704平方メートルとなるが、同報告書ではどの程度となっていたのか、また、そのことをどのように検討したのか

イ 成果品について

- (ア) 成果品の納品日はいつか、また、成果品の精度確認は行っているのか
- (イ) 成果品に示された移転補償費を納品前に知ることはあったのか
- (ウ) 成果品では生徒数を何人と仮定しているのか、また、そのことをどのように検討したのか
- (エ) 新たな校舎の面積はどの程度となっているのか、また、そのことをどのように検討したのか
- (オ) 成果品に記載された移転補償費の総額は幾らか、また、補償コンサルタント業者から提示された移転補償費の総額は幾らか
- (カ) 一般補償ではなく公共補償に至った要因は何か

ウ 関係者との協議等について

- (ア) 昨年11月2日に同校と交渉しているが、だれがだれと交渉したのか
- (イ) 昨年11月2日以前に価格交渉等が行われていたのではないかとの質問が本会議であったが、その真偽はどうか
- (ウ) 本市側から補償コンサルタント業者に対し、同校は現状規模の建物を主張していると受けとめている旨を話しているが、その真

意は何か

(エ) 同校と移転後の校舎の規模について調整を図っているが、現状規模の校舎が必要であるという説明は受けているのか

(オ) 成果品の納品前に補償コンサルタント業者と移転補償費等の協議を行ったのか、また、同校とはどうか

4 市有財産等について

(1) 西部公民館跡地及び新屋ガラス工房建設地について

ア 西部公民館跡地の売り払い時の不動産鑑定士による鑑定結果をどのように評価したのか

イ 新屋ガラス工房建設地の買い入れ時の不動産鑑定士による鑑定結果をどのように評価したのか

ウ 西部公民館跡地の売り払い額と新屋ガラス工房建設地の買い入れ価格を比較し、どのように評価したのか

エ 土地の価格が下落している中、西部公民館跡地の売り払い単価と新屋ガラス工房建設地の買い入れ単価を比較すれば違和感を覚えるがどうか

オ 新屋ガラス工房建設地の買い入れに際し、秋田市不動産評価審査委員会では、なぜ、平均値を採用しなかったのか

(2) 市有地売却後の土地利用に関し、購入予定者等と協議することはないのか

(3) 旧環境部庁舎及び敷地の現在の状況はどうか

5 問題を抱える母子世帯に対する支援について

(1) 本市では、児童相談所案件の場合、要保護児童対策地域協議会の活用は児童相談所が提案することとなっているが、他都市からのケース移管については、本市として同協議会を活用しないのか

(2) デリケートなケースの移管についてはどのように対応しているのか

(3) 小学校では児童養護施設に入所している子供の保護者と面談等はないのか

(4) 児童相談所、児童養護施設、小学校等の連携は、どのように図られているのか

6 がん教育について

(1) がん検診の受診率向上等のための大人に対するがん教育等を行っているのか

(2) 児童・生徒に対するがん教育について、どのように考えているのか

(3) がん教育を通して考えられる有効性をどのようにとらえているのか

(4) 今後、がん教育に取り組む方向性をどのように考えているのか

7 市立中学校・高校の部活動について

(1) 正しい指導のあり方について、どのように考えているのか

(2) 生徒に対する指導者の暴言や暴力についての認識はどうか

(3) 全市立中学校・高校を対象とした教育上の体罰、暴力等の実態調査を実施したことはあるのか

(4) 全市立中学校・高校での運動部活動における暴力行為、暴言及びハラスメント行為の実態調査を実施したことはあるのか

(5) 運動部活動における暴力行為、暴言及びハラスメント行為の報告を受けたことはあるのか、また、あったとすればその詳細な調査を行ったのか、さらに、問題解決に向けた取り組みをどのように行ったのか

8 秋田市民の幸福度について

(1) これまで市民の幸福度を調査したことはあるのか

(2) 幸福度の指標をどのように考えるのか

(3) 本市独自の指標等を用いて調査を行うべきではないか

(4) 調査結果をもとに、市民の幸福度を上げていく施策を考えるべきではないか

9 社会福祉法人への指導監査等について

(1) 社会福祉法人は入札に際し談合してもよいのか

- (2) 市の補助金の交付を受けていない施設の整備後、談合があったとの情報が寄せられた場合、調査は行わないのか
- (3) 談合に関与した社会福祉法人は、その適正さに欠けると思うがどうか

10 浄化槽処理水の地下浸透設備に対する指導等について

- (1) 介護老人保健施設「友愛の郷」において、地下浸透設備のふぐあいを把握したのはいつごろか、また、改善されたのはいつか
- (2) 介護老人保健施設へ指摘があった後、同一敷地内にある特別養護老人ホーム「新成園」の地下浸透設備のふぐあいはわからなかったのか
- (3) 本市では、「新成園」の地下浸透設備のふぐあいをいつから把握していたのか、また、改善されたのはいつで、工事完了をどのようにチェックしたのか
- (4) 本市では、地下浸透設備及び浄化槽についての役割、環境に与える影響をどのように考えているのか

11 公文書の管理等について

- (1) 御所野堤台地区の秋田都市計画地区計画の変更に関する文書は作成していないのか
- (2) 県・市連携文化施設の移転補償等に関する庁内における意思決定過程及び事務事業の実績の公文書は作成していないのか
- (3) 意思決定を行う会議の会議録は作成していないのか

12 内部公益通報制度について

- (1) 内部通報窓口設置から現在までの運用状況はどうか
- (2) どのような通報が寄せられたのか
- (3) 公益通報委員会を開催したことはあるのか

13 受動喫煙の防止について

- (1) 本庁舎敷地内を全面禁煙とすべきではないか

14 電線類地中化（無電柱化）の推進について

- (1) 土崎地区における曳山の運行等に支障を来している箇所の電線類を地中化する考えはないか

1 人口減少対策について

- (1) 本県の人口が100万人を割り込んだが、県全体の約3割の人口を有する県都として、今後どのような役割を担っていくのか

2 新スタジアムの整備について

- (1) 本市に整備費用の負担が求められるとすれば、その財源として、きずなでホットしていあきた寄附金のほか、住民参加型市場公募地方債を活用してはどうか
- (2) 農業振興地域への整備は考えられないのか
- (3) 新スタジアムは、県の施設として整備を進めるべきと思うがどうか

3 農業施策について

- (1) 食品に関連する事業者を支援・育成し、農商工連携による地元産品の競争力強化を図るべきではないか
- (2) 来年度、本市で開催される第141回秋田県種苗交換会において、新たな試みや取り組みをどのように考えているのか
- (3) 本市産ダリアを2020年東京オリンピック・パラリンピックのビクトリーブーケに採用されるよう働きかけてはどうか

4 人事について

- (1) 職員の時間外勤務の推移はどうなっているのか、また、時間外勤務縮減にどう取り組んでいるのか
- (2) 人事評価については、職員が納得し、働く意欲の向上につながっているのか
- (3) 昇任、昇格に当たって、昇任試験を導入してはどうか

5 教育について

- (1) 教職員の長時間労働が問題化しているが、本市としてどのように対

応しているのか

- (2) 過去3年間における小中学校の女性管理職の割合はどのように推移し、その状況をどうとらえているのか、また、今後女性管理職を増加させるため、どのような方策を考えているのか
- (3) 花育を実施した小学校があるが、学校現場の反応はどうであったのか、また、今後さらに広げていく考えはないのか
- (4) 薬物乱用防止教室に取り組んでいる小中学校は何校あるのか、また、今後各種団体と連携して薬物乱用防止を強化していくべきではないか
- (5) 総合的な学習の時間などで外部講師を受け入れるに当たり、学習の内容が具体的にイメージできるよう、各種団体が教職員向けに説明をする時間を設けてはどうか

6 保育料の軽減について

- (1) 保育料無償化の所得制限による不公平感を払拭するため、対象とならない世帯でも、生活実態に即して保育料を一定程度軽減する措置を講じるべきと思うがどうか

7 生活保護について

- (1) 1月31日に札幌市で生活保護受給者が入居する下宿のような共同住宅で火災が発生したが、本市に同様の施設はあるのか
- (2) 国は生活保護費の減額を検討しているが、減額された場合の対応をどう考えているのか
- (3) 本市のケースワーカー1人が担当する世帯数は、社会福祉法に定められている標準世帯数を上回っていることから、ケースワーカーの負担軽減を検討すべきと思うがどうか

8 高齢者の運転免許証の自主返納について

- (1) 高齢ドライバーによる事故防止対策として、機会をとらえて高齢者の運転能力の低下や危険性について啓発し、運転免許証の自主返納を促してはどうか

9 ごみ処理について

- (1) 家庭で不要となったろうそくの分別回収を行ってはどうか
- (2) 家庭ごみの排出量は年々減少しており、特に冬期間はごみの排出量が少なく、また、ごみ集積所の除雪も大変であることから、冬期間における家庭ごみの分別収集を週1回としてはどうか

10 下水道について

- (1) 国が策定した新下水道ビジョンに沿った雨水管理のあり方をどう考えているのか
- (2) 昨年の豪雨を教訓に、浸水被害が想定される地域について、同ビジョンで示された「浸水被害対策区域」に指定し、浸水対策を行ってはどうか
- (3) 将来的に、下水熱の売熱を検討してはどうか

11 消防について

- (1) 本市では、4月から消防法令に違反している防火対象物の公表を行うとしているが、現在、違反している対象物の件数はどうか、また、公表した場合の効果をどのように考えているのか
- (2) 各消防署の老朽化に伴い、将来的に建てかえの必要も生じてくると思うが、消防署の適正な配置のあり方を含め、今後どのように対応していくのか

12 職員の不祥事について

- (1) 内部公益通報制度は、機能していると考えているのか
- (2) 職員による不祥事が続いたが、同じ職場で働く職員に対して、どのような精神的ケアをしているのか
- (3) 不祥事の再発防止に向けて、第三者機関を活用した相談体制の構築が必要と考えるが、今後どう対応していくのか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 市長公約の実現状況はどうか、また、公約実現により将来の秋田市はどのようなまちになるのか
- (2) 秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、最終年度である平成31年度までに基本目標に掲げる数値目標は達成できるのか、また、目標達成のために今後どのような取り組みを行うのか

2 障がい者に優しい共生社会の実現について

- (1) 秋田市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例について
 - ア 同条例に掲げられている「障がいの有無によって分け隔てられることなく、市民一人ひとりが互いに人格および個性を尊重し、相互に理解を深め、支え合いながら暮らすことができる社会」の実現のために、本市が取り組むべき最重要課題は何か
 - イ 同条例の理念を市民に浸透させるためにどのような取り組みを考えているのか
 - ウ 障がいを理由とする差別の解消について
 - (ア) 市民及び事業者に対して、合理的配慮の具体例だけでなく、考え方を周知徹底すべきと思うが、取り組みの現状はどうか
 - (イ) 市役所における合理的配慮の提供状況はどうか
 - (ウ) 市職員は合理的配慮の考え方を十分に理解しているのか、また、全庁的に部局研修を行い、合理的配慮の周知徹底を図るべきと思うがどうか
- (2) 発達障がい児者への支援について
 - ア 発達障がいの早期発見について
 - (ア) 発達障がいの早期発見における取り組みの成果及び課題はどうか
 - (イ) 経過観察クリニックへの参加状況はどうか、また、発達障がい

等の早期発見及び早期療育の継続的な取り組みを促進するために、同クリニックの土日開催を含め、参加しやすくする工夫をすべきと思うがどうか

(ウ) 発達障がいを早期発見するため、1歳6カ月児及び3歳児健康診査時に、子供の視線の動きを計測し、社会性の発達状況を把握できる機器「かおテレビ」を導入してはどうか

イ 小中学校において学級生活支援サポーターをふやすべきと思うが、現状と今後の取り組みはどうか

ウ 通級指導教室の効果及び課題は何か、また、同教室に通う子供たちには、環境に適応することが苦手な子供も多いことから、在籍校に設けるべきと思うがどうか

エ 国による、高等学校における通級による指導の取り組みをどのようにとらえているのか、また、本市の市立高等学校での実施を検討すべきと思うがどうか

オ 発達障がい児者に関する情報について、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、それぞれの間で共有・引き継ぎは的確に行われているのか、また、今後の取り組みはどうか

(3) 障がい者の雇用について

ア 障がい者を対象にした市職員の採用試験の実施に当たっては、身体障がい者だけではなく、精神障がい者及び知的障がい者も受験対象にすべきと思うがどうか

3 子どもを生き育てやすい社会づくりについて

(1) 仕事と育児の両立における課題をどのように認識しているのか、また、取り組みはどうか

(2) 待機児童の解消については、現状から課題を分析した上で解決策を検討すべきと思うが、本市の待機児童の現状はどうか、また、やむを得ず兄弟で異なる保育所に通っている現状をどのように認識しているのか

(3) 国の待機児童解消のためのプランと本市の取り組みについて

- ア 国はこれまでの待機児童解消加速化プランと今後の子育て安心プランにより、待機児童の解消を推し進めているが、本市における取り組み及び成果はどうか
 - イ 企業主導型保育事業について、本市での取り組み状況、成果及び課題はどうか
 - ウ 保育士の処遇改善のために行われている副主任保育士等の月額加算について、本市での認定状況及び課題はどうか
 - エ 保育士の確保策として、保育補助者の保育士資格取得に対する研修や支援をしている事業者に助成する考えはないか
- (4) 保育園等に対して、障がい児の受け入れを拒否しないよう、市から働きかける必要があると思うがどうか

4 交流人口増加による経済活動の活性化について

- (1) 本市観光の主軸となる場所はどこか、また、その場所をもっと魅力的にする工夫やほかの観光資源と結びつける仕組みが必要と思うがどうか
- (2) 観光客のニーズは、子供連れや外国人など、訪れる人により多様化していると思うが、本市ではそれらのニーズをどのように把握し、観光振興に取り組んでいるのか
- (3) 本市の観光コースを市民協働で企画し、本市の観光サイト等で発信するなど、本市の魅力を県外や海外へPRするとともに、市民にも認識してもらえよう取り組むべきと思うがどうか、また、新屋ガラス工房や土崎みなと歴史伝承館を観光資源として積極的に活用すべきと思うがどうか
- (4) 台湾や韓国からの観光客がふえている現状にかんがみ、市内の観光施設や飲食店に対して、多言語翻訳が可能な無料アプリの導入の推奨について、秋田観光コンベンション協会と連携して行ってはどうか

5 市民の幸せの基盤となる健康・長寿の実現について

- (1) 健康寿命延伸のため、これからどのような取り組みを推進していく

べきと考えているのか

(2) 歩くべあきた健康づくり事業のこれまでの成果と課題はどうか、また、同事業を発展的に見直し、スロージョギングを取り入れてはどうか

(3) 健康マイレージ事業について、県は健康ポイント制度の全県域への拡大を進める方針としたが、他都市の調査結果及び本市での検討状況はどうか、また、同事業の導入に当たっては、市民が気軽に取り組めるよう、スマートフォンのアプリの活用を検討してはどうか

6 教員の働き方改革について

(1) 精神的な理由で休職している教員数の推移はどうか、また、疾患の要因は何であると考えているのか

(2) 教員の労働環境改善のため、今後どのような取り組みを行うのか

(3) 勤務時間の適正管理のため、タイムカードの導入を検討してはどうか

(4) 部活動指導員制度を早期に導入するために解決すべき課題は何か、また、県に運用方針を早期に策定するよう働きかけるべきと思うがどうか

(5) 教員の負担軽減のため、教員が担当する事務の一部や授業準備、テストの採点などを行う専門スタッフの配置も必要と考えるがどうか

1 昨年の豪雨災害に対する対応について

- (1) 状況把握と市民への伝達内容並びに初動についての認識はどうか
- (2) 避難所として、中央市民サービスセンターを除く各市民サービスセンターを一斉に開設した理由は何か、また、その判断によって職員の効率的な配置ができなかったのではないか
- (3) 被害状況を的確に把握できたと考えているのか、また、被害地区への情報伝達に問題はなかったのか
- (4) 各市民サービスセンターが災害対応の窓口となったが、的確な情報収集や状況判断ができたのか、また、避難行動要支援者や土砂災害危険箇所居住者の状況把握と情報伝達はどうであったのか
- (5) 雄物川の増水によって支流水門が閉鎖され、広範囲にわたり冠水し家屋の浸水が発生したが、新興住宅地における浸水問題については根本的な解決策を急いで講じるべきと考えるがどうか
- (6) 災害対策本部情報システムに、タブレット端末やスマートフォンからの映像をつなぎ、状況把握に役立てる考えはないか、また、市民サービスセンターやコミュニティセンターにタブレット端末を最低1台配置し、非常時の映像伝送ができるようにすべきと考えるがどうか
- (7) このたびの災害では、公衆電話通信網が確保されており、通常の話連絡ができていたものの、なぜ各市民サービスセンターに配備している非常無線システムを実践運用しなかったのか
- (8) 各市民サービスセンター配備の非常無線システムは、防災安全対策課職員の立ち会いのもと、月に一回程度、定期的に試験通信を行い、操作の習熟度を上げなければ、いざというときに使えない可能性があるが、どのような対策をとっているのか

2 職員の不祥事について

- (1) 職員の不祥事が多発しているが、もはや不祥事の発生した部局に限った問題ではなく、市の組織全体に潜む問題であり、当事者の処分だ

けでは解消されないと考えられるが、事態をどのように認識しているのか、また、再発防止に向けた具体的な対策をどのように講ずるのか

3 財政と施策の選択について

- (1) 市の予算は、いわゆる箱物に傾斜し過ぎているとの批判があるが、どのように認識しているのか
- (2) 一般財源と基金の区別をどのように行い、予算編成しているのか
- (3) すべての基金は、将来見通しを立てて目標額を設定すべきであり、目標額達成に向けた財源確保をどのようにしていく考えなのか
- (4) 長期にわたる大型事業については、債務負担行為の設定によってまずは限度額を設定し、議会で十分な検証と審議ができる時間を確保すべきと考えるがどうか

4 農林業の振興について

- (1) 農業を本市経済の基幹産業として再生し、新たな雇用を生み出すためには、米生産だけに依存せず、立地条件を生かした抜本的な農業政策の見直しと方向性が必要と考えるがどうか
- (2) 園芸振興センターの将来像をどのように描いているのか
- (3) 国では森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）を創設する予定であるが、本市ではこうした施策に呼応し、具体的な方向性と施策をどのように策定していくのか、また、関係部局には対応する担当者を配置するのか

5 家庭ごみ処理手数料と手数料相当額の使途について

- (1) 市が設定した第一段階の減量目標は達成された上に、予想を上回る手数料収入があり、家庭ごみ処理手数料を減額しても、家庭系ごみ減量の動機づけを妨げることはないのではないか
- (2) 家庭ごみ有料化制度の目的は何であると考えているのか
- (3) 手数料相当額については、溶融炉改修費やごみステーション補助など、ごみに関係する施策に限って使用すべきであり、それ以上の手数

料相当額は市民に還元すべきと考えるがどうか

6 フッ化物洗口事業について

(1) 中学生の希望調査について

- ア 中学生には、みずから意思決定する能力があり、保護者からではなく本人から希望をとる方法に変えるべきではないか
- イ 生徒が判断できる環境をどのように整えていくのか

7 スタジアム構想について

- (1) 八橋陸上競技場の改修と新スタジアム建設は、切り離して検討されるべきと思うがどうか
- (2) ブラウブリッツ秋田のJ2昇格に向けて、それを支える基盤についてどのように認識しているのか